

能登榮 のりた 教育學者。嘉永五年七月五日江戸本郷弓町生れ、明治一十八年十一月十八日歿（一八五二—九五）。幼名榮次郎。少時杉原心齋の門に入り漢學を修む。幕末隊伍に加はり宇都宮に轉戦。維新後横濱のデラ大商館に雇はれ、業務の傍ら英語を學ぶ。明治二年ハワネ領事の知遇を得、その歸國に隨行してアメリカに渡り、其學の末九年に歸朝。岡山縣師範學校兼中學校教導職に就き、十二年學府附院教官、十五年長野師範學校校長、次で福島縣師範學校に轉じ、二十五年文部省書記官となつた。

著書に『内外教育史』（明治二十六年十一月十八日金港堂書局株式會社）、『教育學』（ヘルバルト派教育説）（大島崑崙筆記、明治二十八年紀元節序言、長野・中澤活版所印刷）等。

